

令和3年11月12日

総務大臣 殿

郵便番号	100-0005
住 所	東京都千代田区丸の内1-8-1
(ふりがな)	かぶしきがいしゃいんたらくていーうゝい
名称	株式会社インタラクティブィ
(ふりがな)	だいひょうとりしまりやくしゃちょう ささじま かずしげ
代表者の氏名	代表取締役社長 笹島 一樹

放送番組審議会について（報告）

標記について、放送法施行令第8条第3号イの規定に基づき、令和3年11月期について、別添のとおり報告します。

※別添として議事概要等を添付

株式会社インタラクティブィ 番組審議委員会議事録

1. 開催日時： 令和3年11月5日（金） 13時00分～15時00分

2. 開催場所： 株式会社ジュピターテレコム会議室 3階 Room1 会議室

3. 委員の出席：

委員総数： 7名

出席委員数： 7名

出席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）

植田 益朗、音 好宏、片山 哲郎、砂川 浩慶、村上 憲一、中川 幸美、吉岡 忍

放送事業者側出席者：

株式会社インタラクティブィ

代表取締役社長

笹島 一樹

取締役

高木 明夫

株式会社 エー・ティー・エックス<アニメシアターX>

編成営業本部 CH 事業部長

佐野 圭介

ビジネス促進本部 コンテンツ事業部長

山崎 明日香

ジュピターエンタテインメント株式会社<ムービープラス>

代表取締役社長

住田 和嘉子

取締役 編成・制作部長

秋元 美加

編成・制作部 副部長

伊妻 顕子

編成・制作部 アシスタントマネージャー

志賀 可奈子

事務局：

JCOM 株式会社

メディア事業推進部 木村 秀行、斉藤 弘之、河原畑 薫、廣田 結子

4. 議題

株式会社インタラクティブィで放送する6チャンネルの内、「アニメシアターX」、「ムービープラス」の番組内容、編成内容について。

## 5. 審議内容

- ① 「アニメシアターX」の編成およびオリジナル番組『アナログ BANBAN ビッグバン』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- 昭和という番組テーマだったが、出演者3名とも高度成長期の後の時代に生まれた方々で、抑揚のない時代を過ごした世代だなと感じた。
- 出演者3名とも語り口が似ており、番組としてのメリハリが少なく、単調に感じた為、それぞれキャラ分けをした方が良い。
- 声優ファン以外の視聴者としては距離を感じる番組だった。
- 昭和に拘らず、別のギミックでの番組をやっても良いかと。視聴者に寄り添った番組の有り様としては認めざるを得ない。
- 声優はそれぞれ、しゃれっ気があって面白い方が多いため、フリートークなどが活きる番組作りが良いと思う。
- 言葉遣いが悪すぎる点が気になった。
- 最近の若い方にとって、昭和は面白い文化であり、レコードやカセットテープが売れている為、『昭和』というテーマは目の付け所は良い。もう少し若い人向けターゲットでも良いのではないか。
- 地上波ほど完璧な番組にする必要はないが、有料放送ならではの緩さが良い。
- 昨今、オンデマンドの台頭でチャンネルの運営維持は大変な状況だが、まだまだアニメ好きに向けて、このチャンネルでしか見られない番組の活用は大切である。このようなオリジナル番組の活用方法を考えるべき。
- メインターゲットが50代という事だったが、昭和感が薄い。
- 衛星放送協会アワード委員会の観点からすると、CSの中では数少ない貴重なオリジナル番組であるが、もう少し内容を刈り込む必要があるかと。内容を凝縮してエッジを立たせるべきではないか。

### <事業者回答>

- 人気声優を出演者に迎え、視聴者に迎合せず、バカバカしいが、気張らずに気楽に見られる番組を目指した。嫌悪感を抱く方もいれば、熱狂的に受け入れる方もいる番組である為、チャンネルの中では劇薬としての立ち位置の番組である。
- 人気声優が出演者の為、この番組きっかけで加入継続している視聴者もあり、女性人気が比較的高い。
- 地上波との差別化でネタバレをしないような構成を心掛けている。

- ② 「ムービープラス」の編成およびオリジナル番組『副音声でムービートーク』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- 映画館文化の有った時代の作品を取り扱っており、出演者のトーク内容は面白かった。今後、チャンネル側でもコンテンツに映画館文化を取り入れて欲しい。

- 初見の映画だと出演者の副音声気になって映画に集中できない。コメント自体は面白かったが、ぼそぼそしゃべっていて聞きづらかった為、事前に打ち合わせをして、シーンに合わせたコメントなど、もう少し構成の工夫をしてほしい。
- 映画を観たことがある人向けの番組だが、立ち位置としてそれでよいのだろうか。対象年齢も限られ、若い方についてはいけない為、もう少し構成を考えるべき。
- コメントは専門的な為、視聴者の知識が伴わないと置いてきぼりになる。普通の視聴者が引き寄せられるような、視聴者目線のコメントが欲しい。
- 既に映画を観た視聴者に向けての番組であるという事をもう少しアピールしてはどうか。出演者のコメント自体や副音声の使い方としてのアイディアは面白い為、映画中にワイプで抜いて副音声でトークをしている事自体を分からせるなどの工夫が必要ではないか。
- トーク自体は面白いが、出演者の3名がお互いに慣れているだけに、大切な部分の説明を端折っている傾向が見て取れるため、作品の背景も説明するなど、収録前に制作者側との事前打合わせが必須である。
- 企画自体は面白いが、出演者3名がどんな人となりかが分からない。映画の時代背景なども解説しないと視聴者には伝わらない。また映画に集中しなくても見られるようなB級映画でないといこの番組は成立しない。

#### <事業者回答>

- 本番組は、コロナ禍でOTTが益々普及する一方でイベント等の実施が制限される中、映画専門チャンネルとして放送波を通じてできることを探るチャレンジの一つである。
- 劇場で映画を見ながらトークをするというユニークな映画の見方を、「副音声」を活用することでオンエア上でも成立するかを試す目的で始めた。
- 毎月、月内に4回ほどリピート放送をする映画の最終放送に「副音声」を付けることで、本編をそのまま見るだけではない、異なる映画の楽しみ方（見方）の提案でもある。
- これまで、予算も制作体制も限定的に行ってきた。本日頂戴したご意見（番組としての構成・演出、トーク内容の吟味・コントロール、視聴誘導の仕方・工夫など）を心して、今後の番組の在り方を考えたい。

以上